

## 第20回広島ボンバーズ大会規定（中学部）

- 1 1チームの登録選手は11名以上25名以内とする。（試合前審査時11名に満たない場合は出場を禁止する。）  
同学年で25名以上登録の場合は、主催者の承認を得なければならない。  
また登録名簿提出後、試合日に選手が11名に満たない事が判明した場合は、大会事務局へ報告し判断を待つ。
  - 2 選手は全員連盟指定の傷害保険に加入しなければならない。
  - 3 チーム旗及びブラカードは所属連盟指定の物とし必ず持参すること。
  - 4 大会出場は登録選手に限り、背番号は必ず登録された番号とする。変更は認めない。  
変更する場合は、大会前日までに大会事務局へ変更届を提出する。
  - 5 監督（背番号80）コーチ（背番号70）は選手と同じユニホームを着用する事。総監督をおく場合は（背番号90）とする。但し、ベンチ入り及びユニホーム着用での参加は監督が不在の場合に限る。指導者手帳を必ず携帯すること。他リーグ所属の参加チームについては、所属リーグの規定による。
  - 6 登録選手及び登録された監督・コーチ（2名）スコアラー（ヤングリーグ所属チームは指導者証携行厳守）のみベンチに入ることができる。
  - 7 審査は連盟発行の選手・指導者証明証により行う（証明証を携帯していない場合は出場禁止。ただし試合開始までに用意できる時は球場責任者の審査をうけベンチ入りを認める。）（ヤングリーグ所属チームのみ）
  - 8 監督、コーチ、選手はユニホームの左袖に連盟指定マークを付けなければならない。又、スコアラーは選手と同じ帽子を着用すること。他リーグ所属の参加チームについては、所属リーグの規定による。
  - 9 監督・コーチ・スコアラー等不在の場合
    - 1) 監督・コーチ（総監督）が不在の場合は速やかに連盟本部（大会本部）に申請書を提出し、その事情を認めた時は代理監督に許可する。その場合、代理である事の証明とメンバー表に明記する。（指導者証要）  
他リーグ所属の参加チームについては、大会事務局へ早急に届け出ること。
    - 2) スコアラーはあくまでもスコアラーであり不在の場合は本部に申請し代理を認める。（指導者証が必要）  
他リーグ参加チームについては、指導者証は要しない。
    - 3) チーム代表（副代表含む）は監督・コーチ・スコアラーになれない。
  - 10 捕手は必ずユニホームの下に規定の防具を試合及び練習を問わず着用すること。
  - 11 外国人選手及び女子選手の出場を認め、人数制限はしない。
  - 12 ヘルメットは1チーム7個以上同色完全なものを備えること。（但しボールボーイ用として2個準備すること）
  - 13 トーナメント戦の場合、組合せの若番号が一塁側ベンチ、後番号が三塁側ベンチに入る。  
リーグ戦の場合、日程表（試合予定表）の左側か上段記載が1塁側：右側か下段記載が3塁側ベンチに入る
  - 14 メンバー表（5部）交換時、両キャプテンジャンケンにより先行、後攻を決める。  
中学部のメンバー交換には、チーム指導者（監督・コーチ・スコアラーいずれか）、大会本部役員、審判員が立ち会い投球回数制限・可能回数を確認する。（大会様式による）
  - 15 グランドの都合で大会トーナメント規定が別に設定されている場合はそれに従うこと。
  - 16 試合前のシートノックは原則として両チーム5分（後攻から）行うが進行時間等により中止することもある。
  - 17 メガホンを使用するのは、指導者のみとし、ベンチ持込みは、3個までとする
  - 18 監督、コーチが選手にアドバイスをする時はファールラインのところで行う。
  - 19 監督が投手に指示を与える目的をもってタイムを要求する場合直接、間接を問わず1イニング2回目には自動的に投手交代となる。その投手は、他の守備につくことはできるが、同一イニングに再び投手として登板することは出来ない。但し、新しいイニングに入れば登板することが出来る。なお、1回目においては上記ではない。
  - 20 試合中、攻撃側選手に不慮の事故が起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断した時は、臨時の代走者を許可する。この代走者は投手と捕手を除いた選手のうち、打撃の完了した直後の者とする。
  - 21 審判に対して限度を超える侮辱、暴力とみなす行為が認められた場合、審判員は即刻退場を求めることが出来る。ベンチ外【応援団席・観客】から同様の場合も、球場責任者が審判団と相談し退席を求めることが出来る。
  - 22 試合開始予定時間60分前までに到着し所定の審査を受ける。試合開始までにチームが球場に到着なき時は、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言する事ができる。  
開会式会場より移動チームに関して、試合会場到着が遅れる可能性がある場合は猶予する。
  - 23 雷雲、雷鳴が発生した場合には球場責任者、審判員の判断で、すみやかに選手を避難させること。
  - 24 試合方式
    - 1) 7回戦、時間無制限で行い7回終了時同点の場合、勝負が決まるまでタイブレークゲームを継続する。（投手の投球回数を継続し厳守する）  
※球場使用条件により特別な指示がある場合は、この限りではない。大会事務局より該当チームに説明する。  
（タイブレーク）  
最終回終了時の引き続きの打順でワンアウト満塁にてゲームをスタートさせる。
    - 2) 4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は4回表終了時）10点、5回終了以降7点差の場合コールドゲームとする。
    - 3) 日没、降雨、その他で試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(g)【注】により勝敗を決する。試合成立前（4回終了迄）に上記理由で試合続行が不可能になった場合はノーゲームとする。
    - 4) 試合の進行をスピーディーにする為に、監督・コーチの指示伝達は1試合（7回）で守備・攻撃のタイムを各2回迄とする。  
タイブレークに入った場合には1イニングに1回とする  
注1) 野手（捕手を含む）が2名以上マウンドに行った場合は1回の計測をする。  
注2) 捕手は、投手のもとへ行くのは1試合、3回迄として、投手交代・タイブレークは各1回とする。
- 【注】投手の投球回数制限統一ガイドラインに基づく（日没、降雨、その他試合続行が不可能になった場合含む）
- 1) 投手は1日7回以内とする。ただし、端数回数（0/3回 1/3回 2/3回）は切り上げ1回とする。端数回数0/3回は、一死もとらずに降板した場合を示す。
  - 2) 連続する2日間で10イニング以内とする。ただし端数回数は1)に示すものと同じ。
  - 3) 同日複数試合に登板した投手及び連続する2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニング可）は、当該試合制限回数から翌日の試合まで投手または捕手として試合に出場することは出来ない。
  - 4) 連続3試合を投げた投手は当該試合回数制限から翌日の試合まで投手または捕手として試合に出場することは出来ない。
  - 5) 投球回数記録表は責任審判員を経由し球場本部に提出する。
- 25 故意四球の申告制を採用する。野球規則5.05(b)(1)細則参照
- 26 各所属リーグにおいての規定と異なる場合があるので、質問があれば試合前に本部席で確認し理解すること。